

り様々な施策において、ツールを準備することができ、今年度はこうしたものを活用し、畑を耕し成果に結びつける大切な時期であり、しっかりと土台づくりを進めてまいります。

町政に臨む基本姿勢につきましては、第5次福島町総合計画の基本計画及び実施計画を基本とし、町の収入の約半分を占める地方交付税が2年連続減少する厳しい財政環境の中にあつて、知恵を出し合い有利な財源を選択しながら、限られた財源を有効に活用しつつ、等身大の町政執行に努めてまいります。

ただ、産業振興など町の基盤を成す予算にあつては、必要に応じて将来の投資に向けた予算措置を行うとともに、行政サービスの向上に向け、今できる最大限のサービスの提供を目指して、町民の皆様と共に協働で進めてまいります。

主な施策の推進

次に、平成29年度におけるまちづくりについて、第5次福島町総合計画の「5つのま

ちづくりの目標」の実現に向け、次の重点施策に沿って申し上げます。

■次世代を担うリーダー等の育成

当町においても大きな世代交代の時期を迎えており、自ら考え行動し、積極的にまちづくりに参画する人材を育むことが喫緊の課題となっております。

これからのまちづくりを担うリーダー等の活躍の舞台をつくりあげるため、今年度も引き続き「福島町人財育成基金条例」の積極的な活用を促し、各分野における町の将来を担うリーダー等の育成に努めてまいります。

また、包括連携を締結している東京農業大学、公立はこだて未来大学及び国立大学法人北海道大学水産科学研究院並びに北海道大学北方生物圏フィールド科学センターとの連携については、人材育成や産業振興につながる事業を中心に、さらなる連携の強化を図ってまいります。

■産業の再生による雇用の創出

町づくりの基盤となる産業振興を政策の最優先に、浜から活力が生まれ地域振興の発展につながるような対策を積極的に展開してまいります。

産業振興の担い手である地域の事業者の活動を支援するとともに、地元企業等の事業の継承並びに確保を図るため、今年度から福島町がんばる地元企業等応援条例を施行し、基金造成による確かな財源の確保を図るとともに、あらゆる分野で頑張る地元企業等を支援してまいります。

基幹産業である水産業においては、継続的に前浜の生産基盤である昆布養殖施設の整備を図ることで、生産の安定の確保を目指してまいります。

また、漁家経営の生産の底上げを図るため、春先の「早採り昆布」を利用した「食べる昆布」のプロジェクトを、株式会社ヤマザキ及び福島吉岡漁業協同組合と事業連携し、3年後の本格実施を目標に試験事業の推進を図ってまいります。



方創生拠点整備交付金を活用し、陸上養殖施設棟を整備することとしております。

また、前浜の貴重な資源であるウニの安定的な生産体制の確立を図るため、浦和漁港区域の静穏域を活用した蓄養事業を、松前町と協議会を組織した中で、事業を推進してまいります。

なお、現在、地元水産物の価格安定を目的に建設中の水産物鮮度保持施設については、本年9月の完成が予定されており、施設の運営管理にあたっては指定管理者制度を導入することで協議を進めております。また、漁業協同組合が新たに建設する販売流通倉庫について支援を行ってまいります。

現在、国の地方創生加速化交付金で試験実施している「新たな陸上養殖技術の開発による蝦夷アワビブランド化事業」については、本格的な事業化に向けて今年度は、地

「浜の振興計画」については、福島吉岡漁業協同組合が水産庁の承認を受けて進めている「浜の活力再生広域プラン」を基本とし、漁業者はもとより漁組や北海道大学などと連携を図りながら、より具体的で実効性のある実践的な計画策定を目指してまいります。

北海道においては、平成29年度より4年計画で、福島沖魚礁設置工事を計画しております。また、第2種吉岡漁港については、より安心・安全な漁港への改良を進めるために、平成29年度水産物供給基盤機能保全事業で保全計画を策定し、今後の整備を行っていくこととしております。

水産加工業については、イカ漁の不漁に伴う原料の高騰や従業員の高齢化など厳しい状況にありますが、課題の解